

9月度木曜例会 (2015/09/03)

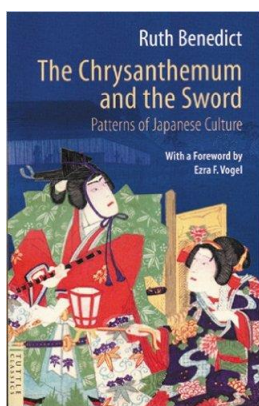
今日は、5年前にも来ていただいた Ms Chizhova Marina (Russia)さんをお迎えしました。Marinaさんは高校時代イギリスに4年間留学し、その後シベリア国立大学に入学。卒業後来日し、大阪大学で日本語、日本文化を専攻されました。日本には9年間滞在し、通訳、国際ビジネスアドバイザー、モデル、タレント…と多方面で活躍しておられます。趣味は執筆、読書、テニス、ゴルフ…と、これも多岐にわたります。以下がスピーチの内容です。



国民の心理について

人は言葉や文化、宗教等が違う。その違いは表面上だけで、基本的には皆、同じだという意見もある。しかし、私はそれぞれ個性が違うからこそ、世界が面白いと思っている。今日は私の個人的な意見を述べるが、後で皆さんと意見交換できれば嬉しい。

来日するまで、日本は私にとって **different planet** だった。日本では床に寝るし、食べる時は箸を使う。スーパーマーケットは…バス停は…どんな感じ? いったいどんな国なのか、と想像もできなかった。



まず、Ruth Benedict の”The Chrysanthemum and the Sword” (『菊と刀』) を紹介したい。これは、戦時中、米政府から依頼を受けたベネディクトが、日本文化を調査研究して書いた本で、私の大好きな本である。<写真左>

彼女の研究のひとつに、なぜ日本は戦争を始め、継続したのか、というものがある。アメリカが戦争を始めたのは、他国を支配するため、弱者をいじめる強者を叩きのめすため、と言える。だが日本は、ヒエラルキー (階層的秩序) を樹立したかったから。例えば中国に行って、国を正しく建て直すこと、そして勿論、そのトップに日本が君臨すること、であった。これが、まず両国間で違うことである。

そして第二に、アメリカ軍は装備 (戦車、武器、兵隊数) に頼ったが、日本軍は軍人の士気 (spirit) に頼った。日本は、たとえ今は負けていても、精神的に負けなければ必ず勝つ、と言っていた。更に、日本人は降伏を拒んだ。他国では、全力を尽くして負ければ、降伏は仕方がないと考えるが、日本人は最期まで戦おうとした。

また、欧米は **far-sighted culture** であるのに対し、日本は **short-sighted culture** だとも述べている。即ち、欧米人は大局を見ても細かいことは気にしないのに対し、日本人は細部にまで気を配る、ということ。例えば、日本人は大きな発明はしないが、発明されたものを良く観察し、それを改良して製品化し、市場に売り出すことができる。

このように、彼女の比較研究は非常に面白い。そこで今度は、私が今までに住んだことのある国の人々を幾つかの形容詞で表したいと思う。

日本人

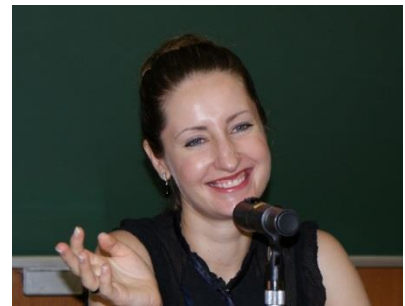
1. Polite
2. Rule Obedient: 規則を守る。プラスな事は多いが、融通が利かないときがある。
3. Pure: 新しい文化/知識にオープンである。新しいものを素直に受け入れようとする。
4. Aesthetic: 例えば、料理は味だけでなく、見た目も大事。日本人は世界で最も美的感覚があると思う。

ロシア人

1. Loose/Rough: 大ざっぱである。lazy とも言える。
2. Brave: ロシアンルーレットに象徴される。日本人なら“それは、ちょっと無理…”と言うが、ロシア人は“できないものは何もない!”と言う。
3. Straight: 時には“暗い”とか“無礼だ”とか言われるが、笑いたくない時に作り笑いをしないだけ。

イギリス人

1. Smart
2. Country of Ladies and Gentlemen
際立った面はないが、マイナス面もない。マナーが良く、日本、イタリア、イギリスは私の大好きな国。



イタリア人

1. Easy-going
2. Cheerful: イタリア人は良く笑うが、彼らのスマイルは自然なもの。性格が明るく、社交的。
3. Not Intellectual: 学問よりも美味しい食べ物、美しい服を愛する。They love to stay simple.
4. Aesthetic: 日本人と同じように美的感覚に優れている。食べ物、服装もしかり。女性は、40代からまさにレディである。

アメリカ人

1. Energetic: 健康志向。たばこを吸う人は殆どいない。スポーツ好き。
2. Business-like
3. Superficial: アメリカ人のスマイルは表面的。相手に良い印象を与えようとしている。

フランス人

1. Freedom loving: フェアを好む。公平を求めて革命、ストライキをする。
2. Gourmet: aesthetic というよりは、グルメ。
3. Arrogant: 英語を話したがらない。(ただ、“Excusez-moi,…”<すみませんが…>とフランス語で話しかけると、その後は英語でも答えてくれる。最後に”Merci!”と言うのを忘れないように!)言語でも食べ物でも、何においてもフランスは世界一だと思っている。
4. Perverted : 少し変。デザイン、食べ物など、何でも複雑なものを好む。映画も複雑で暗く、理解に苦しむ。

中国人

1. Quick-witted in terms of making money: 金儲けと言う意味では賢い。中国文化はかつて偉大であったが、残念ながら、今はそのイメージはない。中国人はやかましく、マナーも悪い。
2. Sly: 中国人は賢いから、ずるくなれる。

今度は、各国の共通点を見ていきたい。

ロシア、イタリア、中国

1. Force guests to eat and drink: 客をもてなすのが好きで、できる限り食べさせ、飲ませようとする。食後、テーブルに何も残らないのは最悪。(食べ物が足りなかった、ということになる。)
2. Connections are everything: ロシアでは、“100 ルーブルを持つより、100 人の友達を！”と言う。イタリア、中国でも同じで、コネがものをいう。

ロシア、日本

Spiritual thing is the same: 精神的に日本人と共通するところがある。ロシア人も最期まで戦う。自殺はしないが。

イギリス、日本

1. Gardening: イギリスのガーデニングは、日本の盆栽や庭園のように奥深いものではないが、共通点は多い。
2. Talking about weather: 会話の最初は、天気の話。イギリスでは天気がよく変わり、日本では季節感があるからだと思う。

最後に、各国の国民性を言い当てた capitalism のジョークを紹介してくれました。スペースの都合上、ここで紹介できないのが残念ですが。

Q&A

*ヒエラルキーに最も影響を与えたものは何ですか？⇒天皇であり、侍社会だと思う。

*5年前はウォッシュレットに慣れていないようでしたが…？⇒”止”の漢字が読めなかったので、立ったら自動で水が止まるのかと思って、立ってしまった経験がある！



*本を出版されたと聞いたので、紹介してほしい。⇒娯楽のための本で、単純明快に文化の違いを書きたかった。外国人観光客が見るような表面的な内容ではなく、ラブストーリーもあり、裏社会もあり、より深く掘り下げて書いている。ストレートに書いているので、読んで笑ってくれたら、それでいい。

タイトルは『おジャマにいいですか!?!』(幻冬舎) <写真左>

*日本の“おもてなし”は too much と思う？⇒例えば商品の包装など過剰だと思うことはあるが、私はそれが好き。商品を specialなものにしてくれる。

*長い歴史を通じ、日本のライフスタイルは変わっても、日本人の精神的な部分は変わっていないと思う。⇒確かに、日本人の印象は

昔から変わっていない。日本人は常に polite で not rude のイメージ。ただ1つ、日本人は泥酔するまで飲むが！

* “裏社会と” いうのは、やくざの世界を意味するが？⇒私が言う “裏社会” は、やくざのことではなく、目に見えない社会の裏側のこと。

以前、喫茶店でコーヒーと共にフレッシュが出たが、これをミルク（牛乳）に換えてほしいと言うと、それは無理なので、別途牛乳を注文してほしい、と言われたことがあるそうです。日本人は確かに規則はきっちり守りますが、柔軟性に乏しいようですね。そう言えば、天気の話も私たちはよくします。その他様々な逸話を聞いて、思い当たる節が色々ありました。Marina さん、本当に鋭い観察力ですね！！

来週の土曜日には、出版記念トーク&サイン会を開かれるそうです。準備にお忙しいなか、今日は本当にありがとうございました。

Marina さんのスピーチに先立ち、ミネアポリスツアーに参加されたお二人（Hさん、Nさん）から英語で報告がありました。以下はNさんのお話しです。

総勢 10 人のツアーで、ミネアポリスには 11 日間滞在。ミシシッピ川クルーズやバーベキュー、City Office や City Council への訪問等、様々な行事、観光を楽しみました。特に、スペリオル湖畔 Duluth へのショートトリップは最高でした。

ホームステイも初めての経験で、豪華な館に泊まらせてもらい、お姫様の気分でした。ワークショップにも参加し、ノートを手作りしました。ミネアポリスと茨木市の姉妹都市 35 周年記念のパーティには、浴衣姿で参加。様々な国からの参加者があり、私たちは炭坑節を踊りました。写真を一緒に撮ってほしいとも頼まれ、着物姿は魅力的なのだと思います、日本人であることを誇りにも感じた瞬間です。

気温は最高 34℃～37℃でしたが、朝晩は 15℃くらいになり、湿気も少なかったです。

ツアーの間、時々通訳をして、皆から感謝してもらい、私の英語学習のモチベーションにもつながりました。私の夢は、いつか家族と一緒に外国に住むことなので、その為にも英語を上達させたいと思っています。

ツアーは本当に素晴らしく、機会があればまた是非参加したいです。

大勢の前で、英語でスピーチをするのは初めてで緊張していると言われておりましたが、分かりやすい英語で堂々と発表してくれました。また、ツアーを企画、実施してくれた皆さんや 2 人のお子さん、その他お世話になった方々に感謝の意を述べられ、心温まるスピーチでした。Nさん、どうもありがとうございました。

